

## ■株主メモ

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで

定時株主総会 毎年6月

上記基準日 定時株主総会については3月31日  
 その他必要あるときは、あらかじめ公告して臨時に基準日を定めます。

剰余金の配当受領 期末配当金については3月31日  
 株主確定日 中間配当金については9月30日

単元株式数 100株

公告掲載新聞 日本経済新聞

株主名簿管理人  
 及び特別口座の口座管理機関 三菱UFJ信託銀行株式会社

同連絡先 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号  
 (郵便物送付先) 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部  
 (電話照会先) 電話 0120-232-711 (フリーダイヤル)

証券・銘柄コード 7458

## <お知らせ>

- 株主様の住所変更、買取請求その他各種手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取扱できませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関になっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問い合わせください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。
- 当社は、貸借対照表及び損益計算書並びに連結貸借対照表及び連結損益計算書を、当社ホームページ(<http://www.dkkaraoke.co.jp/>)に掲載しております。

## 株主優待のお知らせ

2011年3月31日最終の株主名簿に記載された100株以上ご所有の株主様に保有株式数に応じて優待券を贈呈いたします。



所有株式数	優待内容	年2回発行	
		優待券(*1)	CD交換(*2)
100株以上 1,000株未満		500円券×10枚	1枚
1,000株以上		500円券×25枚	2枚

(\*1)当社が運営する「ビッグエコー」店舗、「楽蔵」「ウメ子の家」「びすとろ家」などの飲食店をご利用いただけます。

(\*2)優待券全額と引き換えを条件に、アルバムCDと交換いただけます(カタログより選択)。

贈呈時期:2011年6月24日より送付開始  
 有効期間:2011年7月1日～2011年12月31日

## 株主の皆様の声をお聞かせください

当社では、株主の皆様の声をお聞かせいただくため、アンケートを実施いたします。お手数ではございますが、アンケートへのご協力をお願いいたします。

下記URLにアクセスいただき、アクセスコード入力後に表示されるアンケートサイトにてご回答ください。所要時間は5分程度です。

<http://www.e-kabunushi.com>  
 アクセスコード 7458

いいかぶ 検索 Yahoo!、MSN、exciteのサイト内にある検索窓に、いいかぶと4文字入れて検索してください。

空メールによりURL自動返信 kabu@wjm.jpへ空メールを送信してください。(タイトル、本文は無記入)アンケート回答用のURLが直ちに自動返信されます。

●アンケート実施期間は、本書がお手元へ到着してから約2ヶ月間です。 **ご回答いただいた方の中から抽選で簿贈(図書カード500円)を贈呈させていただきます**

※本アンケートは、株式会社エーツメディアの提供する「e-株主リサーチ」サービスにより実施いたします。(株式会社エーツメディアについての詳細 <http://www.a2media.co.jp>) ※ご回答内容は統計資料としてのみ使用させていただきます。事前の承諾なしにこれ以外の目的に使用することはありません。

●アンケートのお問い合わせ TEL:03-5777-3900 (平日 10:00～17:30)  
 「e-株主リサーチ事務局」 MAIL:info@e-kabunushi.com

## ■ CONTENTS

- 株主の皆様へ
- セグメント別概況
- 連結決算概要
- クローズアップ 事業探訪
- 会社概要
- 株式の状況



取締役会長

保志忠彦



代表取締役社長

林 三郎

拝啓 日頃より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

また、この度の東日本大震災により被災された皆様、そのご家族の方々に謹んでお見舞い申し上げます、一日も早い復興を心よりお祈り申し上げます。

ここに、第36期（2010年4月1日～2011年3月31日）の決算のご報告をお届けいたしますとともに、2011年6月24日に開催された定時株主総会後の取締役会におきまして私こと保志忠彦は取締役会長に、前専務取締役の林三郎が代表取締役社長に選任され、それぞれ同日付で就任いたしましたこともあわせてご報告いたします。

通信カラオケ出現時、13社ほどあった業務用通信カラオケメーカーは、現在ついに2社となり、当社グループが積み上げてきた「DAM」稼働台数は、約60%のシェアを占めるに至りました。

この当社の地位をより磐石なものにするために、当期は、新規市場の開拓と企業体質の強化にも積極的に取り組みました。その結果、成長が見込まれる

エルダー市場において「健康とカラオケ」という存在感が高まるとともに、収益も着実に上げることができ、予定通りの配当を実施することができました。

クラウドコンピューティングに限らず、革新的な新技術が登場し、価格破壊やこれまでのビジネスモデルが通用しなくなる可能性は否定できません。しかし、当社は他の追随を許さないカラオケコンテンツを保有し、それに耐えうる柔軟な経営基盤を保持できるよう投資をしてきております。

当社グループは、カラオケ業界のリーディングカンパニーとして、時代の変化に対応し、音楽をビジネスの軸としてより楽しいサービスの提供を通して業界の発展のために邁進してまいります。またコーポレートガバナンスの充実を図り、社会に貢献する企業グループを目指してまいります。

株主の皆様におかれましては、引き続き倍旧のご支援ご愛顧を賜りますよう、よろしく申し上げます。

## 当期の概況

当期におけるわが国経済は、輸出企業などを中心に企業収益にも一部改善の兆しが見られたものの、円高の影響や個人消費を後押しする政策の終了・縮小などにより足踏み状態となりました。また、3月11日に発生しました東日本大震災による経済活動への影響が懸念されております。

このようななか、当社グループの業務用カラオケ事業におきましては、賃貸に供するカラオケ機器の一部に震災被害はあったものの、出荷は好調に推移し、通信カラオケ「DAM」シリーズの稼働台数は増加しております。カラオケ・飲食店舗事業におきましては、既存店の活性化と新規出店、M&Aなどにより、収益の確保に努めてまいりました。また、音楽ソフト事業では、主力アーティストの作品群が収益に貢献いたしました。

以上の結果、当期の売上高は音楽ソフト事業とその他の事業が減収となったものの、業務用カラオケ事業の新商品発売を主因に増収となったことから、127,885百万円（前期比2.1%増）となりました。利益面におきましては、業務用カラオケ事業は増益となったものの、カラオケ・飲食店舗事業が競争の激化、震災後の影響から減益となり営業利益は16,510百万円（同5.3%減）、経常利益は17,457百万円（同5.2%減）となりました。また、特別損失として資産除去債務に関する会計基準の適用、適格退職年金制度の廃止損の計上に加え、震災関連損失の計上などにより当期純利益は9,590百万円（同

10.6%減）となりました。

## 来期の見通し

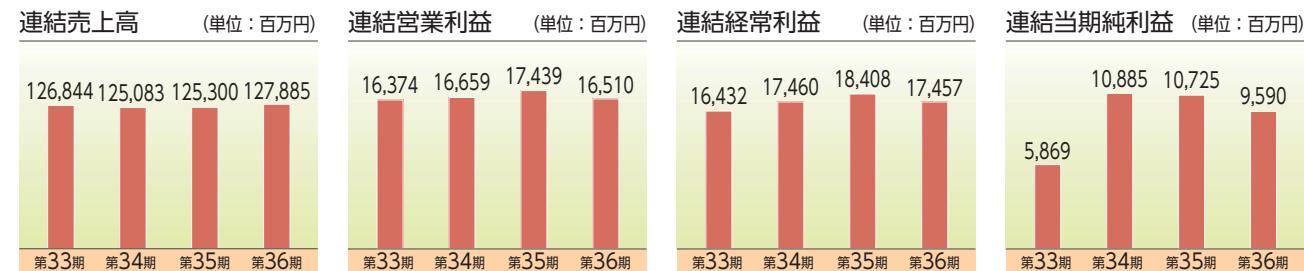
今後の当社を取り巻く事業環境は、震災後の生産活動が復旧していくに伴い、復興政策の効果などを背景に、景気が緩やかに回復していくことが期待されるものの、先行き不透明感による消費マインドの低下が懸念され、引き続き厳しい状況が予想されます。

このようななか、当社グループにおきましては、この度の東日本大震災を教訓に、これまで以上に緊急時の速やかな事業復旧を可能とする体制整備に取り組んでまいります。

なお、震災後の支援と節電対策につきましては、「カラオケ」を通じた被災地への応援や、運営しておりますカラオケルーム・飲食店舗でのLED照明化の推進や屋外看板の消灯などの省電力に努めてまいります。

2011年3月11日に発生いたしました東日本大震災に伴う当社グループの直接的な損害は軽微でございました。しかしながら、次期の見通しにつきましては、震災による経済活動や消費動向への影響が、予断を許さない状況で推移するものと思われます。このような厳しい環境に対処するため、当社グループの経営資源を最大限に活用し、ビジネスモデルを進化させながら、さらなる企業価値の創造と業績の向上を目指してまいります。

## 連結財務ハイライト



# セグメント別概況 〔本年度よりセグメント情報の開示に関する新基準を適用しており、前期のセグメント情報を当期と同一基準に組み替えて記載しております。〕

## 業務用カラオケ事業

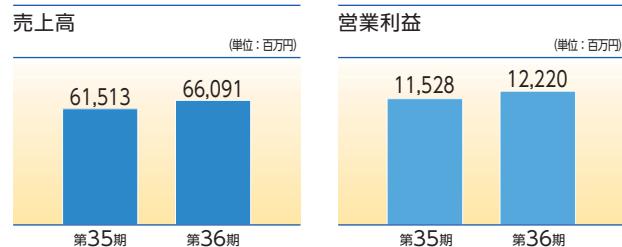


当事業におきましては、情報提供料収入を核とする安定的な収益基盤を構築するために、低シェア地域での市場深耕と新たなマーケットとして期待されるエルダー市場の開拓に重点をおいた営業活動に注力いたしました。その結果、「DAM」稼働台数や機器賃貸件数は、震災によるカラオケ機器の被害はあったものの、純増となりました。機器ラインアップとしては、4月に発売したナイト市場向け商品「サイバーDAM α (DAM-G50X)」に加えて10月下旬に発売した新フラッグシップ機「LIVE DAM (DAM-XG5000)」の出荷が好調に推移いたしました。

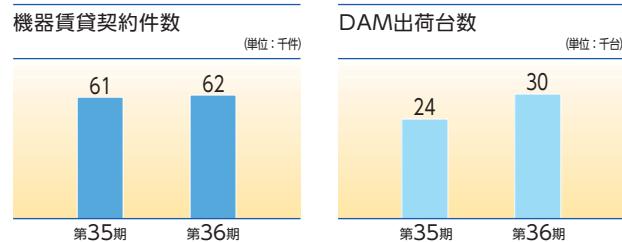
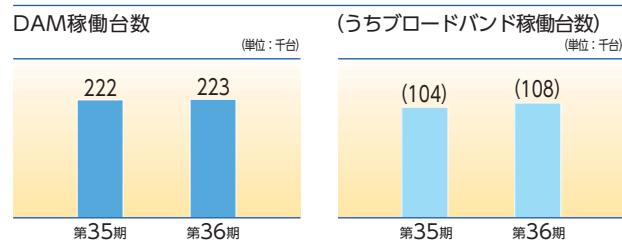
以上の結果、当期の業績は、情報提供料収入が順調に増加、商品販売が好調に推移したことから売上高は前期比7.4%の増加となり、営業利益は販売費等の増加はあったものの前期比6.0%の増加となりました。

今後の取り組みにつきましては、安定収入源である「DAM」シリーズの稼働台数増加を目的として、低シェアであった地域の開拓を強化いたします。加えて将来の市場拡大が見込まれるエルダー市場を「プラス65」と位置付け、介護施設やデイケア施設などへの導入強化

とコンテンツ開発に注力してまいります。また、業界初のフルハイビジョン映像を搭載した「LIVE DAM (DAM-XG5000)」の販売は好評であり、引き続き拡販に努めてまいります。



### ●主要数値



## TOPICS (業務用カラオケ事業)

### ◆ LIVE DAM×デモグラフィDSでのサービス強化



#### DAM★とも 多重録音

LIVE DAMで録音し、公開された曲に対して、他のDAM★ともユーザーが重ねて録音できるサービスです。歌の上手なDAM★ともユーザーや自分自身とのデュエットやハモリが可能！多重録音した曲もパソコンや携帯電話で視聴したり、公開できます。

カラオケの新しい楽しみ方のひとつとして人気のコンテンツです。

#### ※ [DAM★とも]

自分の歌った歌をパソコンや携帯電話でいつでも聴けて、さらにDAM★ともユーザーに公開できるサービスです。

### ◆ 「DAM CHANNEL」新MCに『中川翔子』を起用！



「DAM CHANNEL」の9代目MCに“しょこたん”こと中川翔子を起用しました。

独特な感性と知識、表現力でカラオケや音楽に関する情報を紹介し、カラオケを楽しむユーザーやそのシチュエーションを盛り上げます！

#### ※ [DAM CHANNEL]

カラオケ演奏の合間に最新の音楽情報はじめ様々なエンターテインメント情報をお伝えする情報コンテンツ



### ◆ うたで応援しよう Sing for Smile プロジェクト始動



“うたの力”が、被災地の方々にとって少しでも心のケアのひとつになってほしいという思い、そして一日も早く、勇気・希望・笑顔を取り戻してもらいたいという願いを込めた「Sing for Smile プロジェクト」を始動しました。

その中核として、うたの力で人と人をつなげることを目指し、通信カラオケLIVE DAMで歌ってキャンペーンに応募すると、義援金を寄付できる「LIVE DAM Sing for Smile キャンペーン」を実施。義援金は日本赤十字社を通じて寄付いたします。

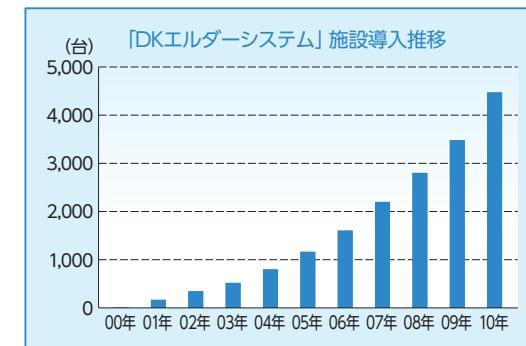
今後も“うた”や“カラオケ”を通じた様々な応援企画を実施する予定です。

### ◆ 「DKエルダーシステム」

当社の推進する「DKエルダーシステム」は、福祉・介護施設などに約4,500台導入しております。(2011年3月末時点)

特に近年、カラオケを楽しむことが健康維持につながるという声が多方面からあがっており、アクティブシニアの健康維持・増進や介護予防に対する注目が高まっています。これを受け、当社は、2010年10月より東北福祉大学と共同研究を開始しました。これは、「DKエルダーシステム」のプログラムを活用して健康増進及び介護予防、認知症予防効果(脳の活性化)などの評価についておこなうものです。これらの結果をもとに今後も、高齢者の心身の活性化や健康維持・回復に取り組んでまいります。

※ 「DKエルダーシステム」とは、福祉・高齢者用音楽療法補助具です。



# セグメント別概況 〔本年度よりセグメント情報の開示に関する新基準を適用しており、前期のセグメント情報を当期と同一基準に組み替えて記載しております。〕

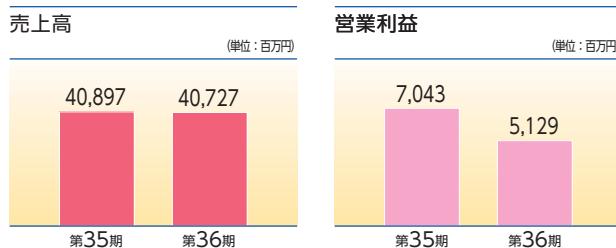
## カラオケ・飲食店舗事業



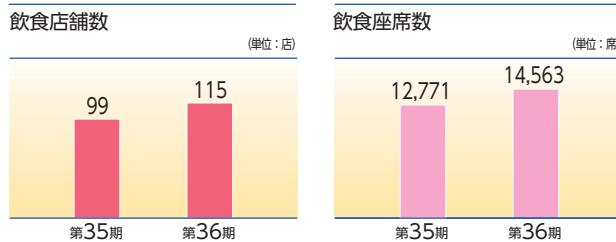
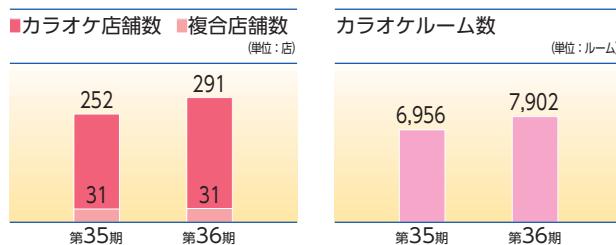
当事業におきましては、「ビッグエコー」などのカラオケルーム及び和・洋・エスニックなど様々な業態の飲食店舗を展開しておりますが、競争の激化により既存店売上が低調に推移するなか、固定費の削減、不採算店舗の整理、好立地への新規出店などにより利益確保に努めてまいりました。また、6月に取得したベスタ・フーズ株式会社が、埼玉県下を中心にカラオケ居酒屋「祭一丁」13店舗を展開しており、当期の売上高に寄与いたしました。

以上の結果、当期の業績は、個別施策の効果は見られなかったものの、個人消費の低迷と大震災後の自粛ムードや節電の影響もあり売上高は前期比0.4%の減少となり、営業利益は前期比27.2%の減少となりました。

今後の取り組みにつきましては、カラオケルーム事業においては、競争の激化から既存店売上高の低迷するなか、地域・消費者のニーズをきめ細かく捉えるため、複数ブランド化を進めてまいります。飲食店舗事業においては、都市部、法人需要の取り込みを狙った新業態の開発に注力してまいります。また、カラオケルームと飲食店の複合による相乗効果を狙うとともに、引き続き好立地での新規出店に取り組み、収益の基盤強化に努めてまいります。



### ●主要数値



## TOPICS (カラオケ・飲食店舗事業)

### 「ビッグエコー」

#### ◆「ビッグエコー」でマルチブランド展開スタート

この度、「ビッグエコー」では、お客様の入り易さを追求し、商圈に適したブランドを構築いたします。

従来からある「BIG ECHO」に加え、お得感とより身近な店舗を目指した「カタカナ ビッグエコー」と、店内をクリスマスイメージにした「ビッグエコー-25」を展開してまいります。

新たなブランドの登場により、幅広い層のお客様獲得を目指します。

今後も、ビッグエコーのカラオケを笑顔でお客様に楽しんでいただけるよう、さらなるサービスの充実に努めてまいります。



**BIG ECHO**  
清潔で安心と安全を心がけたカラオケ

新タイプ

### オトクに新登場



**カタカナ ビッグエコー**  
選べる飲み放題がオススメのお得感があるカラオケ

**ビッグエコー-25**  
さらに安くて楽しい毎日クリスマスパーティー

### 「ダイニングバー」

#### ◆シチュエーションに合わせたプランスタート

PTA・同窓会等での午後のご宴会に「昼宴会プラン」、誕生日・クリスマス・バレンタインデー等での「記念日プラン」、気の合う仲間との「女子会・男子会プラン」など、様々な用途に合わせたプランをご用意いたしました。ぜひ、ご利用ください。



### 被災地復興応援への取り組み

ビッグエコーと飲食店舗事業において、復興支援に向けたプロジェクトに取り組んでおります。



- 義援金活動**  
店頭での従業員とお客様による募金活動と、「TABLE FOR TWO」メニューの一部を、日本赤十字社を通じて寄付させていただいております。
- 被災地名産メニュー**  
被災地の名産メニューをご用意し、ご注文いただいた売上の10%を寄付いたします。(2011年9月末迄)
- ビッグエコー無料開放**  
被災者の方が避難されている避難支援施設へ、近隣ビッグエコーの無料ご招待券を進呈いたしました。
- 夏期ユニホーム**  
節電対象地区で、応援メッセージ入りTシャツの軽装着用を実施しております。(2011年10月末迄)

# セグメント別概況 [本年度よりセグメント情報の開示に関する新基準を適用しており、前期のセグメント情報を当期と同一基準に組み替えて記載しております。]

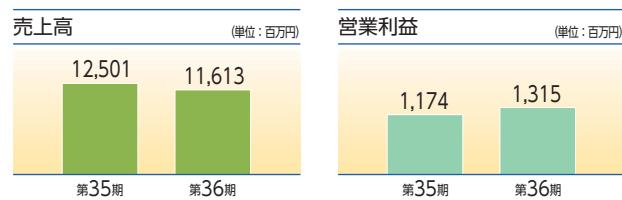
## 音楽ソフト事業



当事業におきましては、経営の効率化が定着するなか、日本クラウンの「北島三郎」や「SKE48」、徳間ジャパンコミュニケーションズの「水森かおり」や「Perfume (パフューム)」などの作品が順調に推移いたしました。また、アミューズメント機器向けの音源提供が収益に貢献いたしました。

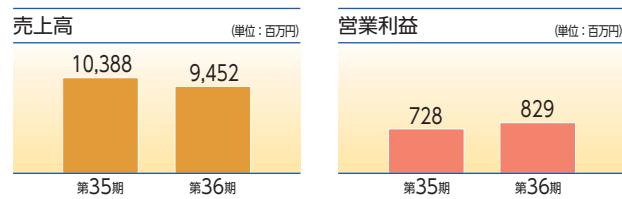
以上の結果、当期の業績は、アニメDVDの発売減などから売上高は前期比7.1%の減少となったものの、営業利益は広告宣伝費などの販売費低減が奏功し、前期比11.9%の増加となりました。

今後の取り組みにつきましては、子会社の日本クラウンと徳間ジャパンコミュニケーションズにおける経営体質の強化が図られるなか、新人アーティストの発掘からヒット曲の創出までの好循環サイクルが定着しつつあります。安定してヒット作をリリースする「Perfume」(徳間ジャパンコミュニケーションズ)ほか、芸道50周年を迎えた「北島三郎」(日本クラウン)などが期待されており、当社グループの総合力を活かしたサポートと積極的なプロモーション活動を行ってまいります。



ました。

以上の結果、当事業の売上高は前期比9.0%減少したものの、販売費等のコストコントロールにより営業利益は前期比13.9%の増加となりました。



## その他の事業



当事業におきましては、携帯電話向けコンテンツサービスや衛星放送事業のほか、ホテル事業を含むその他の事業を行っております。携帯電話向けサービスと衛星放送事業の加入者数は減少傾向で推移しており、ホテル事業などのその他事業におきましても軟調に推移いたし

## TOPICS (音楽ソフト事業)

### ◆話題のアーティスト・作品

#### CROWN NIPPON CROWN Co.,Ltd.



#### 北島 三郎

芸道50周年を記念して、3月より特別公演をスタートさせた北島三郎。東京公演は、震災の影響により途中から中止となりましたが、博多、名古屋、大阪の3大都市では50周年を飾るに相応しい熱いステージで盛り上げます。6月に発売したニューシングル「おとこの潮路」も好評発売中!



#### Tiara

2月に待望の2ndアルバム「Tears」を発売したTiara。幅広い女性の支持をうけ、新世代の恋の伝道師との呼び声も高まっています。着うた®配信では、総ダウンロード数が200万ダウンロードを記録! 7月6日には待望のニューシングル「時をとめて feat.WISE」の発売が決定!!



#### MAN WITH A MISSION

頭はオオカミ・身体は人間(!?)という衝撃の容姿と、骨太なサウンドにポップなメロディーが絡む絶妙なその音楽性で、インディーズ時代から話題沸騰となっていた謎のバンドが遂にメジャーデビュー! 全国FMやCS音楽チャンネルでのパワープレイも続々決定しており、業界での注目度も急上昇です!



#### Perfume

昨年、5万人を動員した初の東京ドームライブ「1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11」のDVDがオリコンデイリーランキング1位を記録! 5月には、2011年第1弾シングル「レーザービーム/微かなカオリ」を発売し、結成11年目も絶好調!



#### ソナーポケット

4月に発売したニューシングル「ラブレター。〜いつだって逢いたくて〜」が、レコチョク着うた®・着うたフル®ともに週間ランキング初登場1位を記録! 独りである時に想う、大切なあの人への恋心を歌った共感度200%の直球ラブソングです。2ndアルバムもロングヒットを記録中のソナポケットから今後も目が離せません!



#### 借りぐらしのアリエッティ

昨年7月に公開され話題を呼んだジブリ映画「借りぐらしのアリエッティ」のDVD/ブルーレイディスクが6月17日に発売されました。ブルーレイディスクには、公開記念特番「ジブリ作品の源流を探る旅」やセル・コルベル主題歌のプロモーションビデオも収録され特典が満載です!

※「着うた®」「着うたフル®」は、株式会社ソニー・ミュージックエンタテインメントの登録商標です。

# 連結決算概要

▶ 詳細な財務情報は、

当社ホームページ「IR情報」<http://www.dkkaraoke.co.jp/ir/ir.html>をご覧ください。

## 連結貸借対照表の要旨

(単位：百万円)

科目	第35期 2010年3月31日現在	第36期 2011年3月31日現在
<b>資産の部</b>		
流動資産	50,926	50,446
固定資産	74,849	87,001
有形固定資産	45,986	47,085
無形固定資産	7,420	8,063
投資その他の資産	21,441	31,852
資産合計	125,776	137,447
<b>負債の部</b>		
流動負債	26,866	25,398
固定負債	14,854	24,014
負債合計	41,721	49,413
<b>純資産の部</b>		
株主資本	84,226	87,934
資本金	12,350	12,350
資本剰余金	17,285	14,035
利益剰余金	55,563	61,552
自己株式	△ 973	△ 4
その他の包括利益累計額	△ 1,000	△ 851
その他有価証券評価差額金	△ 153	91
土地再評価差額金	△ 777	△ 777
為替換算調整勘定	△ 68	△ 164
少数株主持分	828	951
純資産合計	84,054	88,034
負債及び純資産合計	125,776	137,447

※記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

● 流動資産	POINT
流動資産の減少480百万円は受取手形及び売掛金の増加3,229百万円、たな卸資産の増加2,982百万円、現金及び預金の減少7,215百万円が主なものであります。	
● 固定資産	
固定資産の増加12,151百万円は投資有価証券の増加10,069百万円、カラオケルーム及び飲食店舗設備の増加1,341百万円、土地の増加930百万円、のれんの増加641百万円が主なものであります。	
● 流動負債	
流動負債の減少1,468百万円は未払法人税等の減少2,259百万円、短期借入金金の減少1,326百万円、支払手形及び買掛金の増加2,376百万円が主なものであります。	
● 固定負債	
固定負債の増加9,160百万円は長期借入金金の増加8,854百万円が主なものであります。	

## 連結損益計算書の要旨

(単位：百万円)

科目	第35期 2009年4月1日から 2010年3月31日まで	第36期 2010年4月1日から 2011年3月31日まで
売上高	125,300	127,885
売上原価	72,324	75,819
売上総利益	52,976	52,065
販売費及び一般管理費	35,537	35,554
営業利益	17,439	16,510
営業外収益	1,603	1,475
営業外費用	633	528
経常利益	18,408	17,457
特別利益	490	383
特別損失	1,683	2,294
税金等調整前当期純利益	17,215	15,546
法人税、住民税及び事業税	7,133	6,493
法人税等調整額	△ 784	△ 707
少数株主損益調整前当期純利益	—	9,759
少数株主利益	140	169
当期純利益	10,725	9,590

※記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

<注記事項>	第35期	第36期
1. 有形固定資産の減価償却累計額	53,776百万円	57,715百万円
2. 保証債務	551百万円	301百万円
3. 担保提供資産	6,880百万円	5,545百万円
上記に対応する債務	2,908百万円	1,997百万円
4. 1株当たり当期純利益	160円17銭	147円26銭
5. 1株当たり純資産額	1,263円54銭	1,356円06銭

● 売上高	POINT
音楽ソフト事業とその他の事業が減収となったものの、業務用カラオケ事業の新商品発売を主因に増収となったことから前期比2.1%増加の127,885百万円となりました。	
● 営業利益・経常利益	
業務用カラオケ事業は増益となったものの、カラオケ・飲食店舗事業が競争の激化、震災後の影響から減益となり営業利益は前期比5.3%減少の16,510百万円、経常利益は同5.2%減少の17,457百万円となりました。	
● 当期純利益	
特別損失として資産除去債務に関する会計基準の適用、適格退職年金制度の廃止損の計上に加え、震災関連損失の計上などにより前期比10.6%減少の9,590百万円となりました。	

## 連結キャッシュ・フロー計算書の要旨

(単位：百万円)

科目	第35期 2009年4月1日から 2010年3月31日まで	第36期 2010年4月1日から 2011年3月31日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	31,141	19,343
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 14,116	△ 28,213
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 12,754	1,626
現金及び現金同等物に係る換算差額	22	△ 61
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	4,293	△ 7,304
現金及び現金同等物の期首残高	29,584	33,877
現金及び現金同等物の期末残高	33,877	26,573

※記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

● 営業活動によるキャッシュ・フロー	POINT
・税金等調整前当期純利益	15,546百万円
・減価償却実施額	13,551百万円
・法人税等の支払額	8,772百万円
・売上債権の増加	3,240百万円
・たな卸資産の増加	2,979百万円
・仕入債務の増加	2,377百万円
● 投資活動によるキャッシュ・フロー	
・投資有価証券の取得による支出	11,895百万円
・有形固定資産の取得による支出	9,998百万円
・無形固定資産の取得による支出	4,333百万円
● 財務活動によるキャッシュ・フロー	
・長期借入れによる収入	13,135百万円
・長期借入金の返済による支出	5,843百万円
・配当金の支払額	3,596百万円

## 連結株主資本等変動計算書

第36期(2010年4月1日から2011年3月31日まで)

(単位：百万円)

	株主資本					その他の包括利益累計額				少数株主持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	その他有価証券評価差額金	土地再評価差額金	為替換算調整勘定	その他の包括利益累計額合計		
2010年3月31日残高	12,350	17,285	55,563	△ 973	84,226	△ 153	△ 777	△ 68	△ 1,000	828	84,054
連結会計年度中の変動額											
剰余金の配当			△ 3,601		△ 3,601						△ 3,601
当期純利益			9,590		9,590						9,590
自己株式の取得				△ 2,280	△ 2,280						△ 2,280
自己株式の消却		△ 3,249		3,249	—						—
株主資本以外の項目の連結会計年度中の変動額(純額)						244	—	△ 96	148	123	271
連結会計年度中の変動額合計	—	△ 3,249	5,988	969	3,708	244	—	△ 96	148	123	3,979
2011年3月31日残高	12,350	14,035	61,552	△ 4	87,934	91	△ 777	△ 164	△ 851	951	88,034

※記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。



株式会社 第一興商  
代表取締役社長  
林 三郎

## クローズアップ 事業探訪 Vol.3

# 震災復興支援への取り組みと 高い付加価値を追求する新戦略

東日本大震災に対する復興支援活動として第一興商が展開する「Sing for Smile プロジェクト」。その活動内容や、新モデル「LIVE DAM」のこれまでの状況、さらに、今後の市場別営業施策などについて、代表取締役社長 林三郎がご説明します。

### “歌うこと”を通じた幅広い支援活動を展開

未曾有の大災害となったこの度の東日本大震災では、第一興商グループも東北3県と茨城県を中心に、業務用通信カラオケ機器が被災するなど、多大な影響を受けましたが、現在、一日も早い事業復興に取り組んでおります。

過去を振り返ると、終戦直後の大ヒット曲「リンゴの唄」はたくさんの人の心を慰め、そして支えとなり、戦後復興の大きな力となりました。また、1995年の阪神淡路大震災の際も歌やカラオケを通じた支援活動を展開し、確かな効果と手ごたえを実感しました。人は、歌うことで前に進んでいけると、過去の歴史が実証してきたその事実を今ここで再認識し、“うたの力”、“音楽の力”で大きな困難のなかにいる方々を少しでも元気づけられるような活動に、グループの総力を挙げて取り組んでいきたいと考えており、第一興商グループでは、カラオケビジネスを展開する企業グループならではの復興支援活動として「Sing for Smile プロジェクト」をスタートさせました。これは、例えば「LIVE DAM」をご利用いただくと1曲につき5円の義援金を被災地に送るキャンペーンやチャリティライブを実施したほか、“歌うこと”を通じて少しでも元気になって笑顔を取り戻していただきたいということから、時期をみて、被災地へのカラオケトラックの巡回、カラオケ機

材の出張貸出などを企画するものです。

「もっと音楽を世に もっとサービスを世に」という社是と、“歌の和で明日をつくる”という決意を歌った社歌(明日をつくる\*)をもつ当社にとって、今こそ、その理念を行動で体現するべき時なのです。

※株式会社第一興商 社歌「明日をつくる」作詞 石本美由起/作曲 古閑裕而

### 大好評をもって市場に迎えられた「LIVE DAM」

昨年10月に発売した当社の新フラッグシップモデル「LIVE DAM」は、おかげさまで、15,000台弱と半期で過去最高の出荷台数を記録しました。一時は注文が殺到して納品が追いつかない時期もあったほどで、この市場環境のもと、加えて、震災という厳しい状況に見舞われながら目標を達成することができたことに、我々も驚いているほどです。

好調の要因は、何よりも生音楽曲やフルハイビジョン映像などを通じて、ライブの臨場感を実現した圧倒的な商品力。2か月間におよぶ全国での展示会をはじめ、積極的なプロモーション活動を展開し、まずは、大手のカラオケボックスチェーン様に、次世代カラオケとしての優れたクオリティを、特に高く評価していただきました。

また、「LIVE DAM」の販促活動では、実際にカラオケを歌われるエンドユーザーの方に向けたアプローチにも注力し、有名アーティストのライブイベントにご招待する

「LIVE DAMキャンペーン」や、専属キャラバン隊やアドトラックを駆使した全国3大都市の街頭・店頭での販促活動も行いました。幅広い世代から支持を集める矢沢永吉さんのテレビCMも非常に好評で、実際に「LIVE DAM」を体感した多くのエンドユーザーの方々が、ツイッターなどでそのクオリティを絶賛し、さらにそれをご覧になった方々が「LIVE DAM」に興味を持たれて実際にお店に足を運ばれる、という今までにない現象も起こっています。

### 顧客志向を追求していくデイ&ナイト市場

当社の主要なマーケットに「デイ市場」と「ナイト市場」があります。デイ市場とは、いわゆるカラオケボックス、ナイト市場はバー・スナックなどの飲食店が対象となります。

当期のデイ市場では、「LIVE DAM」の製品特長を最大限に活用しながら、個々のカラオケボックスチェーン様に対して、様々な提案をしております。そして、「LIVE DAM」の導入がいかにして各カラオケボックスチェーン様のブランドイメージを強化し、集客効果に結びつか、また売上アップにつながるかをともにプランニングしてまいりました。これは、いずれのお客様からも大変喜ばれる結果となりました。これを受けて、今後も多様化するお客様のニーズに対応する体制も強化しているところです。

一方、ナイト市場では、来店されるお客様に、より楽しんでいただける、いわば店舗様にとっての営業支援を展開しようと準備を整えてまいりました。具体的には、コインボックスをベースにした売上に、より貢献できるコンテンツづくりです。例えば魅力的な採点システムなどを通じて、歌うだけではないカラオケの新しい楽しみ方を提案することで、来店されたお



客様が滞在時間を延ばされ、「店舗にもメリットがあるカラオケ」としての利用価値を再認識していただこうと考えています。

これらは、店舗のビジネスメリットまでをも見据えた、徹底的な顧客志向を追求するアプローチです。大震災を受けて、その始動は若干遅れるかもしれませんが、今期はこうした営業戦略も展開してまいります。

### 大きな成長が期待される「+65(プラス65)市場」

デイ市場、ナイト市場とともに、これから大きな成長が期待されるのが高齢者の方々のカラオケ利用を想定した「+65市場」です。まだまだ元気な65歳以上の世代の方々は時間的・経済的な余裕があり、カラオケに対するニーズも非常に高いものがあります。そこで当社では、全国旅館ホテル生活衛生同業組合連合会(略:全旅連)の指定商社として、当期は約1千台のカラオケ機器を全国の宿泊施設などに納入いたしました。これは、家族や高齢者グループのコミュニケーションに対するカラオケの役割・効能というものが、確実に社会に認知され始めている証といえるでしょう。

一方、カラオケを歌ったり、音楽に合わせて身体を動かしたりすることで、高齢者の心身の活性化や身体機能の維持・回復に寄与する音楽療法システム「DKエルダーシステム」は、現在、全国約4,800箇所の福祉・介護施設などに導入されています。昨年10月からは東北福祉大学とカラオケの効果と健康増進、介護予防、地域コミュニティ形成に関する共同研究をスタートし、この6月には、いずれの観点からも大きな効能が認められたという研究結果が出ました。地方自治体などからもたくさんの問い合わせが寄せられているこのシステムは、高齢化社会のさらなる進展を背景に、今後ますます注目を集めていくことでしょう。

我々にどんなかたちで社会貢献ができるか、という問いかけから、他に先駆けて「+65市場」に注目して10年になります。その種が少しずつ確実に、ビジネスという花を咲かせつつあることは嬉しい限りです。

# 会社概要

## 会社概要 (2011年3月31日現在)

商号	株式会社 第一興商 (英文表記) DAIICHIKOSHO CO., LTD.
所在地	〒141-8701 東京都品川区北品川5-5-26 電話 (03) 3280-2151 (大代表)
設立	1973年4月16日
資本金	12,350百万円
従業員数	当社 1,546名 グループ 3,154名
JASDAQ上場	1995年9月19日

## 役員 (2011年6月24日現在)

取締役会長	保志忠彦
代表取締役社長	林三郎
専務取締役	兼上席執行役員 根本賢一
専務取締役	兼上席執行役員 熊谷達也
専務取締役	兼上席執行役員 三富洋
常務取締役	兼上席執行役員 保志忠郊
常務取締役	兼上席執行役員 村井裕一
常務取締役	兼上席執行役員 和田康孝
取締役	兼執行役員 渡邊泰人
取締役	兼執行役員 三宅彰
取締役	吉川満
取締役	清水義美
常勤監査役(社外)	掛川洋
常勤監査役(社外)	石坂文人
常勤監査役	高瀬信行
監査役(社外)	有近真澄
	執行役員 有馬伸治
	執行役員 西島勲
	執行役員 小澤慎一
	執行役員 小椋久広
	執行役員 飯島毅
	執行役員 吉澤明人

## 第一興商グループ 当社及び連結子会社

40社

(2011年3月31日現在)



### 主な事業内容

- 業務用カラオケ事業
- カラオケ・飲食店舗事業
- 音楽ソフト事業

## 国内販売子会社 25社

(株)北海道第一興商	(株)城北第一興商	(株)北陸第一興商
(株)釧路第一興商	(株)台東第一興商	(株)京都第一興商
(株)北東北第一興商	(株)城東第一興商	(株)第一興商近畿
(株)東北第一興商	(株)城西第一興商	(株)京阪第一興商
(株)福島第一興商	(株)湘南第一興商	(株)兵庫第一興商
(株)常磐第一興商	(株)新潟第一興商	(株)九州第一興商
(株)群馬第一興商	(株)長野第一興商	(株)沖縄第一興商
(株)栃木第一興商	(株)静岡第一興商	
(株)埼玉第一興商	(株)東海第一興商	

## その他国内子会社 11社

(株)ディーケーファイナンス	(株)ディーケー音楽出版
ベスタ・フーズ(株)	(株)クラウンミュージック
日本クラウン(株)	(株)ズームリパブリック
(株)徳間ジャパンコミュニケーションズ	ユニオン映画(株)
クラウン徳間ミュージック販売(株)	丸萩洋酒工業(株)
(株)トライエム	

## 海外子会社 4社

(株)韓国第一興商	第一興商電子貿易(上海)有限公司
第一興商(上海)電子有限公司	D.K.Enterprises(Guam), Inc.

(注)ベスタ・フーズ(株)は2010年6月に全株式を取得し、完全子会社といたしました。

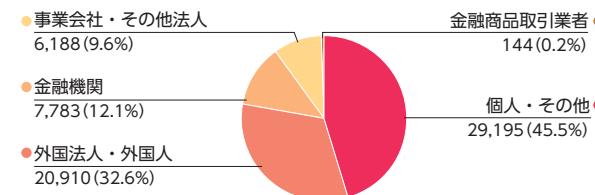
# 株式の状況 (2011年3月31日現在)

- 発行可能株式総数 200,000,000 株
- 発行済株式の総数 64,220,596 株
- 株主数 14,012 名
- 大株主

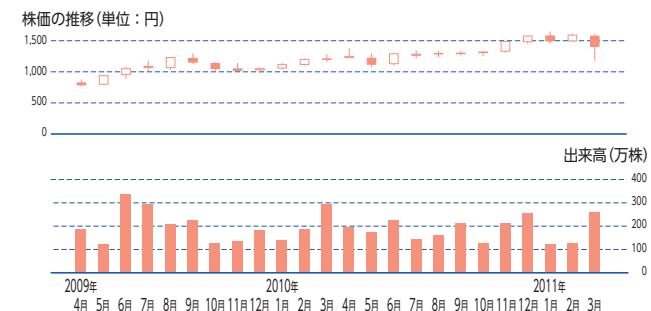
株主名	持株数 (千株)	議決権比率 (%)
保志忠郊	8,069	12.5
保志治紀	7,877	12.2
㈱ホシ・クリエート	4,449	6.9
ステートストリートバンクアンドトラストカンパニー	3,887	6.0
日本トラスティ・サービス信託銀行(株)(信託口)	1,867	2.9
ザチエスマンハッタンバンクエヌエイロンドン	1,824	2.8
メロンバンクフリーティークライアントオムニバス	1,440	2.2
三菱UFJ信託銀行(株)	1,148	1.7
日本マスタートラスト信託銀行(株)(信託口)	996	1.5
ザチエスマンハッタンバンクエヌエイロンドンエスエルオムニバスアカウント	972	1.5

(注)1. 上記のほか、当社は2,813株の自己株式を保有しております。  
2. 持株数、議決権比率は表示単位未満を切り捨てて表示しております。

## ■所有者別株式分布 (単位:千株/構成比)



## ■株価(月足)チャート



## ホームページのご案内

当社のホームページでは投資家の皆様にご活用いただける情報を掲載しております。ぜひアクセスしてください。

URL <http://www.dkkaraoke.co.jp/>



トップページ



IR情報



事業のご案内